

2026 年 9 月 13 日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒325 番 (SK 姉)

『救い主の愛』

聖書⇒ヨハネの黙示録 4 章 10~11 節 (SK 兄)

『二十四人の長老は、玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。

「主よ、わたしたちの神よ、／

あなたこそ、／

栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。

あなたは万物を造られ、／

御心によって万物は存在し、／

また創造されたからです。』』

聖書⇒使徒言行録 4 章 12 節

『ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。』』

聖書⇒ヨハネによる福音書 14 章 6b 節

『「わたしは道であり、真理であり、命である。

わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。』

(祈り)

聖書⇒ルカによる福音書 15 章 3~7 節 (KH 姉)

『そこで、イエスは次のたとえを話された。「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。』』

礼拝讃美歌⇒442 番

『九十九匹の羊は』

聖書⇒詩編 86 編 1b~5 節 (ES 姉)

『主よ、わたしに耳を傾け、答えてください。

わたしは貧しく、身を屈めています。

わたしの魂をお守りください／

わたしはあなたの慈しみに生きる者。

あなたの僕をお救いください／

あなたはわたしの神／

わたしはあなたに依り頼む者。

主よ、憐れんでください／

絶えることなくあなたを呼ぶわたしを。

あなたの僕の魂に喜びをお与えください。

わたしの魂が慕うのは／

主よ、あなたなのです。

主よ、あなたは恵み深く、お赦しになる方。

あなたを呼ぶ者に／

豊かな慈しみをお与えになります。』

聖書⇒マタイによる福音書 20 章 13c~14 節

『あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。

わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。』

(祈り)

《パン裂き》

聖書⇒マタイによる福音書 26 章 26~30 節 (EK 兄)

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言うておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出か

けた。』

(式)

礼拝讃美歌⇒149 番
『主イエスを覚えんため』

《建徳》

聖書⇒創世記 4 章 1~7 節 (ES 姉)

『さて、アダムは妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「わたしは主によって男子を得た」と言った。彼女はまたその弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。時を経て、カインは土の実りを主のもとに献げ物として持って来た。アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその献げ物に目を留められたが、カインとその献げ物には目を留められなかった。カインは激しく怒って顔を伏せた。主はカインに言われた。「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 11 章 4 節

『信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ、その信仰によって、正しい者であると証明されました。神が彼の献げ物を認められたからです。アベルは死にましたが、信仰によってまだ語っています。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 3 章 12 節

『カインのようになってはなりません。彼は悪い者に属して、兄弟を殺しました。なぜ殺したのか。自分の行いが悪く、兄弟の行いが正しかったからです。』

聖書⇒マタイによる福音書 20 章 13~14 節

『主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。』

聖書⇒マルコによる福音書 10 章 39~40 節

『彼らが、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ。』

聖書⇒列王記下 5 章 1, 2~3, 4~5, 9~10, 11~12, 13, 14, 15~19a 節 (CN 兄)

『アラムの王の軍司令官ナアマンは、主君に重んじられ、気に入られていた。主がかつて彼を用いてアラムに勝利を与えられたからである。この人は勇士であったが、重い皮膚病を患っていた。

アラム人がかつて部隊を編成して出動したとき、彼らはイスラエルの地から一人の少女を捕虜として連れて来て、ナアマンの妻の召し使いにしていた。少女は女主人に言った。「御主人様がサマリアの預言者のところにおいでになれば、その重い皮膚病をいやしてもらえるでしょうに。」

ナアマンが主君のもとに行き、「イスラエルの地から来た娘がこのようなことを言っています」と伝えると、アラムの王は言った。「行くがよい。わたしもイスラエルの王に手紙を送ろう。」こうしてナアマンは銀十キカル、金六千シェケル、着替えの服十着を携えて出かけた。

ナアマンは数頭の馬と共に戦車に乗ってエリシャの家に来て、その入り口に立った。エリシャは使いの者をやってこう言わせた。「ヨルダン川に行つて七度身を洗いなさい。そうすれば、あなたの体は元に戻り、清くなります。」

ナアマンは怒つてそこを去り、こう言った。「彼が自ら出て来て、わたしの前に立ち、彼の神、主の名を呼び、患部の上で手を動かし、皮膚病をいやしてくれるものと思っていた。イスラエルのどの流れの水よりも Damascus の川アバナやパルパルの方が良いではないか。これらの川で洗つて清くなれないというのか。」彼は身を翻して、憤慨しながら去って行った。

しかし、彼の家来たちが近づいて来ていさめた。「わが父よ、あの預言者が大変なことをあなたに命じたとしても、あなたはそれとおりにさしたにちがいありません。あの預言者は、『身を洗え、そうすれば清くなる』と言っただけではありませんか。」

ナアマンは神の人の言葉どおりに下って行つて、ヨルダンに七度身を浸した。彼の体は元に戻り、小さい子供の体ようになり、清くなった。

彼は随員全員を連れて神の人のところに引き返し、その前に来て立った。「イスラエルのほか、この世界のどこにも神はおられないことが分かりました。今この僕からの贈り物をお受け取りください。」神の人は、「わたしの仕えている主は生きておられる。わたしは受け取らない」と辞退した。ナアマンは彼に強いて受け取らせようとしたが、彼は断つた。ナアマンは言った。「それなら、らば二頭に負わせることができるほどの土をこの僕にください。僕は今後、主以外の他の神々に焼き尽くす献げ物やその他のいけにえをささげることはしません。ただし、この事については主が僕を赦してくださいますように。わたしの主君がリモンの神殿に行つてひれ伏すとき、わたしは介添えをさせられます。そのとき、わたしもリモンの神殿でひれ伏さねばなりません。わたしがリモンの神殿でひれ伏すとき、主がその事についてこの僕を赦してくださいますように。」エリシャは彼に、「安心して行きなさい」と言った。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 1 章 18 節
『十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、
わたしたち救われる者には神の力です。』

礼拝讃美歌⇒395 番 (KH 姉)
『慈しみ深き』

礼拝讃美歌⇒84 番 (MK 姉)
『良き羊飼いは』

《建徳要旨》